

授業科目名 <英訳>	ケーススーパーヴィジョン I Practice in Case Supervision I				担当者所属・ 職名・氏名	教育学研究科 教授 桑原 知子 教育学研究科 教授 岡野 憲一郎 こころの未来研究センター 教授 河合 俊雄 教育学研究科 准教授 田中 康裕 教育学研究科 教授 高橋 靖恵 教育学研究科 准教授 松下 姫歌 人文科学研究所 准教授 立木 康介					
配当 学年	修士	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時間	金3,4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
共用科目											
【授業の概要・目的】											
本研究科附属心理教育相談室において担当する事例について、個別の臨床実践指導（スーパーヴィジョン）により、個別指導を行う。これを通して、見立て、ケースマネジメント、臨床心理面接に関するさまざまな位相の知（技法を含む）を、さらに深く体得していくことが目的である。											
【到達目標】											
自らの事例を客観的にとらえ直し、心理臨床実践に生かせるようになること。一方で、自らを内省的に振り返り、事例に深くコミットできるようになること。											
【授業計画と内容】											
担当事例について、各自に割り当てられた臨床実践指導者（スーパーバイザー）のもとで報告し指導を受ける。指導方法に関しては、事前にスーパーバイザーと十分に相談すること。 また、各自が受けている指導に関して授業担当教員と他の履修生を含むグループで議論する機会が設けられることもある。											
【履修要件】											
「インテークカンファレンス」「心理教育相談室相談実習」「ケースカンファレンス ～」も併せて履修すること。 教育学研究科以外の学生は履修不可・受講は、臨床心理学コースの学生に限る。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
授業に積極的かつ真摯に取り組む姿勢が必要であり、それらを総合的に判断して評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学習（予習・復習）等】											
事例を担当することおよび事例をスーパーバイザーとともに検討することなど、ほとんどが授業外の学習によって成り立っている。											
（その他（オフィスアワー等））											
日本臨床心理士会の定める臨床心理士の倫理規定を遵守すること。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											